

2009年12月24日発行

# ぶろす

四季の会・ユーザーズ・サービス

268号

発行人 浅沼 邦夫

拝啓 歳晩の候、先生におかれましては益々御健勝のことと存じます。

今日はクリスマスイブ、かなりたくさん家庭でケーキが食卓を飾り、夜サンタクロースがやってくる。街々はクリスマスを多彩なツリーとクリスマスソングで祝っているようです。「産経新聞 12/22 山河有情」の中に、ここに面白い統計がある。「**全国社寺教会等宗教団体・教師・信者数**」という**文部科学省の平成 18 年 12 月現在の公式統計**である。その信者数の欄を見ると、神道系 1 億 681 万 7669 人、仏教系 8917 万 7769 人。キリスト教系 303 万 2239 人、諸教系 981 万 7752 人で、その総計は実に 2 億 884 万 5429 人となっている。1 桁の単位まで細かく計上されているが、人口をはるかに超える不可解極まりない信者数となっている。

神道系の信者が 1 億人以上というところをみると、氏子はもちろん、神社に詣でて柏手を打てば信者ということになるのかもしれない。仏教徒約 9 千万というのも、説話会に通う人の数とは思えないので、少なくとも檀徒であれば信者として数えられているのであろう。ことほど左様に多くの日本人の特定の宗教への傾斜度は低い。

**31 日は寺々で除夜の鐘が響き渡り、108 の煩惱が消えてゆく。明けて元旦、老若男女こぞって神社に初参りをする。**われわれはあまり違和感を覚えることなく、わずか 1 週間くらいの間に、キリスト教、仏教、神道の間を渡り歩くこととなる。

**唯一神を信仰する人々にとって八百万の神々をもつ日本人の宗教心は理解しがたい。日本人の信仰は多くの神々を信じる多神教です。**神や仏、日本の豊かな自然は人間をその懐に包みこんでいるのです。多神教が「感ずる宗教」だとすれば、一神教は「信ずる宗教」だといわれています。日本人は自然の中で感じる。また、先祖の気配を自然の中で「感じる人」が多いのです。宗教を「信じている」人は 20% ぐらいです。

すべての宗教に心底寛容である日本人の心、自然と戦うのではなく、自然をあがめ、

これとともに生きてゆこうとしてきた日本人の心は、世界の架け橋となって、地球を救う大いなる力となりえる可能性を秘めているかも知れません。

## 「古い技術」に磨きをかける！

アメリカは、新しいものを開発し、前進していく。ロシアは、古いものの良いところは残していく、「古い技術」を磨き上げていく。思想価値観が全く違うのです。ロシアは、今回が 108 回目の飛行で 71 年以来、38 年間も死亡事故は起きていません。古くてもシンプルな技術を使い込み、経験によって信頼性を上げていくのがロシアのやり方だそうです。2 度の事故で 14 人が犠牲になったアメリカのスペースシャトルに比べ延期も少ない。安心と信頼性が高いのです。

危なげのない打ち上げだった。野口聡一さんら日米露の宇宙飛行士 3 人を乗せたロシアの有人宇宙船「ソユーズ」は、当初の予定時刻ぴったりにかザフスタンのバイコヌール宇宙基地を飛び立った。

日本にとっては、米国とは異なる有人宇宙技術や、システム、その背景にある思想に触れるチャンスでもある。日本の有人宇宙開発を考える上で参考にできるところを吸収し、今後役に立ててほしい。

飛行機をイメージして開発された再利用型のスペースシャトルは、ソユーズに比べるとメンテナンスなどのコストが高い。打ち上げ時に外部燃料タンクからはがれ落ちる断熱材が機体を傷つけるリスクもある。03 年のコロンビア事故で現実になった。

シャトルは、2010 年秋の引退が決まっており、その後の ISS への人の輸送はソユーズに頼るしかない。日本は米国だけに顔を向けているわけにはいかない。

日本は将来の有人宇宙開発で、米国だけでなく、ロシアや欧州などどう協力していくか、よく検討しておく必要がある。その際に、単なる「お客さん」ととどまらないためには、技術力が鍵を握る。今年、技術実証機が成功した宇宙ステーション補給機「HTV」は足がかりのひとつだ。

(毎日新聞 12/22 号より)

**「私は、ロシアの発想に学びたい」と感ずるのです。何故か！会計事務所は「基本」「原点」などが大事だと常々思っています。「決算こそ、会計事務所の最大のビジネスチャンス」だと信じて成長してきました。**

私たちは「原点」が大事。基本業務である「月次監査と決算」にプラスアルファを付けること、それが顧客満足になるのです。仕組みは顧客満足により、付加価値と新規獲得の「原点」です。「社長の四季」システムは「仕組み」です。決算をしない企業はないし！決算をしない会計事務所もないのです。決算時にお客様である経営者が、よく理解し納得できる報告ができるか！「見える化」が何より大事です。決算診断こそ、少なくとも「過去の 3 期」をよく見ることが大事、そして、「今期を反省し、考え、未来に備えることができる」、経営者から見れば「見える化」、会計事務所にとっては「見せる化」です。**経営者の心の揺さぶり方だと思うのです。決算という「古い技**

**術」を決算診断が磨き上げれば、経営者の「言霊」となり、「困ることはおきない」「いいことが起きる」ことができる。喜ばれる「決算」になると思います。**

## 波動で伸びる

会計事務所、所長先生は豊かである。意外と危機感が薄い人も多い。企業の経営者は、モノを売り、作り、サービス化等々、常にお客様はゼロからのスタートです。会計事務所は常に有るお客様で売上が発生し、安住してしまう。こんなに有難いものはない。しかし、これからは、お客様満足を徹底しないと、競合・競争に負けないようにしないと、お客様が離れて、「収入ゼロ」になってしまうかも知れません。

**「波動」経営者の「思い」「いかに切に思うか」「何が何でも」「絶対にやる」「切に思うこと」は必ず実現する。経営者の「思い、仕事ぶり」が、波動が経営の成否を分ける。**「なぜ、不景気にもかかわらず、うまくいっているのか！」「なぜ業界が経営的に厳しいのに、順風満帆の成長をしているのか！」等は、波動が合っているからです。

波動は社員、取引先、顧客に経営方針を徹底し、共鳴させ、経営体質を強化させる。波動とはいったい何か！①波動は波である。②波動は共鳴する。③波動は干渉する（合うとか合わない）。④波動は場を創る。⑤**波動はエネルギーを持つのです。つまり、「経営者は、理念という波動を社員に伝える。社員一人一人が理念に、共鳴すれば、結果としてやる気を起こす。このやる気自身も波動であるため、社員全体の中に共鳴現象が起こり、やる気をまだ起こしていない社員の心にも、火をつけることになる。**つまり、波動が共鳴する空間を創る。この波動は、更に時空を超え、連綿と受け継がれることになり、それが、その企業に伝統となっていく。経営者の波動が健全に企業内に伝わる限り、その企業は生成発展のエネルギーを持つことになるのです。波動は素晴らしいのです。

**波動がお客様に伝導していく建設会社がある。「縁起のよい家づくり誓いの言葉」社員・職方全員でお客様の前で「朝の儀」で合唱する。「〇〇様の命をかけた、大切な日光杉の家の仕事を承りありがとうございます。」「私たちは、200%のご満足をいただきますよう最高の仕事を行います。」**

「一、お客様に代わり最も厳しい検査を毎日実地することにより、きれいに整った環境の中で最高の家を、自信を持って造ります。一、毎日、徹底した段取りを行い、早い満足の工期で家を完成させます。一、笑顔絶やさず、親切に、早く、わかりやすい対応をさせていただきます。家造りへ感謝報恩の気持ちを忘れず、新しい建築知識と正しい生き方を、学び実践し最高の自分のお客様へ尽くします。よろしくお願ひします。」

**こんな考え方で、我が会計事務所も「月次監査や決算」基本業務に学び、実践する。お客様に 200%のご満足をいただけるよう、最高の仕事を行いますと取り組んだら、益々発展すると思うのです。**